

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	アジア哲学系プログラム(シンガポール国立大学分析アジア哲学プログラム、応用哲学・分析アジア哲学プログラム、メルボルン派遣プログラム、アジア哲学研究等)
代表者名	出口康夫
事業概要 (600 字程度)	<p>以下では一体的に運営された哲学系諸プログラムの概要を一括して記す。</p> <p>2014 年度にはアジア哲学研究(I~V)として Petrus Lie, Cathay Lie, Jay Garfield (以上 SNU), Yumiko Inukai (University of Massachusetts, Boston), Mark Siderits (Seoul), Takashi Yagisawa (CSUN), Koji Tanaka (Auckland), Bronwyn Fingigan (Marquette), Christian Wenzel (NTU)の諸講師による哲学系の英語講義が開講された。</p> <p>これらの講義に参加し優秀な成績を修めた者のうち 2 名がメルボルン大学哲学科に 3 ヶ月間、6 名がシンガポール国立大学に 2 週間、3 名が台湾諸大学(国立清華・政治・陽明大学)に 1 週間、それぞれ派遣された。派遣学生はメルボルン大学と国立清華大学での日本語クラスに参加し SEND 活動も行なった。またアジアの各大学(ソウル大学校・上記台湾三大学・シンガポール国立大学)から 23 名の学生(シンガポール国立大 16 名、ソウル大 1 名、政治大 4 名、陽明大 1 名、清華大 1 名)を招き、京大の学生・院生とともに、1 週間、Jay Garfield 教授によるセミナーに参加させた。さらに JASSO 奨学金を利用してソウル大とシンガポール国立大の大学院生を招聘し KUASU 事業等、京都大学における様々な教育研究活動に参加させた。</p> <p>これらの事業と密接に関連する形で、8 月には第二回東アジア現代哲学会議を京都大学で開催し、KUASU の哲学系事業に参加してきた京大内外の教員・大学院生が多数参加した。3 月にはシンガポールで第二回京大・シンガポール国立大学・国立政治大学三大学大学院生会議を開催し、三大学の大学院生・教員が多数発表を行なった。</p> <p>また今年度は、京大内外の学生・研究者が継続的に教育・研究交流を続けるためのインターネット・プラットフォームである Kyoto International Consortium for Asian Studies の本格的な運用が開始された。さらに分析アジア哲学の英語教科書を作成・出版する計画も進められた。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>KUASU における哲学系事業も三年目に入り、KUASU を一つのハブとして、アジアひいては世界に広がる、「分析アジア哲学」という新分野の教育・研究ネットワークがよいよ実質化しつつある。京大やアジア諸大学の学生・院生の間で、本事業に継続的に参加する層が現れ、教員も交えた、大学・国境を超えたコミュニティーが成立しつつあるのである。その中で、分析アジア哲学を専攻・副専攻とする学生・院生も複数現れ、その研究成果を上記の国際会議等で発表する者も出始めている。</p> <p>また京大の学生・院生の中で、本事業に参加したことで、海外への留学を強く志望するようになった者も続出し、2015 年度には 2 名がそれぞれ奨学金を獲得し海外の大学の博士課程(シドニー大学・コネチカット大学)に進学する予定である。さらにこのような長期の留学以外にも、本事業に参加した院生の間には、短期留学や海外学会への参加・発表に極めて積極的な姿勢を見せる者も続出している。現時点で、既に 1 名が海外学会で発表し、2 名が海外学会に参加予定、1 名が海外の大学でのサマースクールに参加予定である。</p> <p>さらに本事業の成果は、京大の通常の教育・研究活動にもプラスの効果をもたらしつつある。2014 年度文学部哲学専修に提出された修士論文のうち、本事業に参加した 2 名の院生は自発的に論文を英文で執筆したが、これらの英文論文の執筆に当たっては、上記の教育研究ネットワークに参加している海外の教員(特に、Greg Restall 教授(メルボルン大学)、Jay Garfield 教授)による指導が大きな役割を果たした。</p> <p>さらに世界展開力や特別経費による事業終了後も継続する成果の目処も立ちつつある。上記の三大学合同大学院生会議は、2015 年は京都大学で開催される予定であるが、その会議は過去の会議の成果を集大成する場として位置づけられ、優れた研究発表を何らかの仕方でも公刊する計画が立てられつつある。また上記、「分析アジア哲学」の英文入門書は、本事業に関わってきた国内外の研究者を結集させる形で、同分野における世界初の教科書として公刊される予定である。</p>

